

平成28年度 行政評価事業別シート

実計対象		☐	評価対象	☒	新規	☐	完了事業	☐	ゼロ予算事業	☐	担当者	警防課
全体計画					経費区分	—			内線		3781	
事務事業名		4342 消防施設管理事業										
所 属		450100 消防本部・消防本部・消防署										
施 策		03021400 消防・救急体制の充実										
予算 科目	会計	01 一般会計										
	科目	090103 消防費・消防費・消防施設費										
	事業	010000 消防施設管理事業										
事業目的						事業概要・効果						
消防施設を適正に維持管理し、災害時の対応に万全を期する						・経年老朽する施設の改修 ・既存施設の活動向上のための改修 ・地上式消火栓の設置及び維持管理						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 予定
・既設防火水槽の改修 ・消防団活動の安全管理の向上 ・地上式消火栓の設置及び維持管理	・既設防火水槽の改修 ・消防団活動の安全管理の向上 ・地上式消火栓の設置及び維持管理
平成29年度 予定	平成30年度 予定
・既設防火水槽の改修 ・消防団活動の安全管理の向上 ・地上式消火栓の設置及び維持管理	・既設防火水槽の改修 ・消防団活動の安全管理の向上 ・地上式消火栓の設置及び維持管理
平成31年度 予定	平成32年度 予定

指 標 名						
算 式						単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目 標 値	目 標					
	実 績					
指標選定の理由						
最終年度 目標の根拠						
指 標 名						
算 式						単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目 標 値	目 標					
	実 績					
指標選定の理由						
最終年度 目標の根拠						
指 標 名						
算 式						単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目 標 値	目 標					
	実 績					
指標選定の理由						
最終年度 目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成27年度 決 算	平成28年度 予 算
事業費		22,503	24,357
特 定 財 源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		22,503	24,357
人 員 数 (人)	正規職員	0.6	0.6
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
人 員 コスト	正規職員	4,324.8	4,324.8
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	4,324.8	4,324.8
市民一人当たりの経費		0.5	0.5
総額		26,827.8	28,681.8

(単位：千円)

平成27年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	1,298	消防団機械器具置場修繕 消防本部庁舎施設修理
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	735	老朽化する無蓋防火水槽撤去工事
19節 負担金補助及び交付金	19,314	消火栓設置・維持管理費
その他	1,156	借上料、火の見打鳴装置購入

(単位：千円)

平成28年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	1,650	施設修繕 消防団機械器具置場修繕
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	21,547	消火栓の設置、維持管理費
その他	1,160	借上料、火の見半鐘打鳴装置購入

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	・市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか ・行政内部の管理運営上必要な事業であるか ・市が主体となり実施すべき事業か ・法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか ・目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか	必要不可欠
評価コメント	消防水利の整備充実に必要 経年により劣化している消防団機械器具置場を修繕、また地上で半鐘を打鳴できる装置を購入し、消防団活動の安全を図っている	
有効性	・事業の成果は上がっているか ・目標に対する達成度は十分か ・市民生活上の課題解決に貢献しているか ・行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか ・事業の目的が達成できるような事業内容になっているか	大変有効
評価コメント	地上式消火栓を整備することにより、視認性・操作性が向上 操作が容易な地上式消火栓の設置を進め、自主防災組織での初期消火体制に有効 地上で半鐘を打鳴でき安全性が向上	
効率性	・成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか ・効率性向上に努めているか ・使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか	やや向上
評価コメント	水道事業者の工事に併せ消火栓を設置し、費用の効率化を図っている	

振り返り（決算年度の取組み課題）

関係部局との連携を継続する
既施設を維持管理する

ACTION**1次評価**

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント	
既設の機械器具置場を修繕し機能維持が図れた。 水道事業工事等に併せて消火栓を設置し、費用の効率化が図れた。	

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
2次評価コメント	
消防施設の保守管理を行い、消防基盤の維持が図れた。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	